

思いやりと優しさのある、良質で安全な医療を提供いたします。

HOKUTO TIMES

医療法人北斗会 大洲中央病院広報誌「ホクトタイムス」

No.

38

2014/04



チーム一丸となって
患者さんの回復・ケアを
全面的にバックアップするため
入院時カンファレンスを行っています。

医師 山上 隆司(内科)

MSW 池田 辰也 (地域医療連携室室長) | 理学療法士 西川 宏幸(科長) | 検査技師 高田 義久(科長)

医療事務 谷本 志津 | 薬剤師 灘部 晴美 | 管理栄養士 二宮 藤子(科長) | 看護師 高岡 美智代(師長)

Zoom Up!
Oozuchuo Hospital



【入院時カンファレンス】

それぞれが持つ情報を共有 することでチームが機能する

大洲中央病院では、患者さんが入院される際、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、管理栄養士、リハビリ担当者、医療ソーシャルワーカー、事務職員などさまざまな職種のスタッフでチームを形成しカンファレンスを行っています。カンファレンスとは、一般的には会議や検討会を指しますが、医療現場では「症例検討会」という意味合いを持っています。各職種が得た情報を全体で共有することで、早期に問題点を抽出することができ、効率的で質の高い医療とケアの提供に繋がります。

現在は、週に2回カンファレンスを行っており、一人の患者さんに対して、主治医が15分程度で患

者さんの状態と治療方針を説明した後、今後の治療やケア、支援方法について話し合っています。このカンファレンスには、さまざまな職種が集うので、お互いの意見を聞き、患者さんのケアに役立てることができるよう、スタッフ一同真剣に議論します。スタッフはそれぞれ専門的な知識を持っているので、時には視点の違いから意見が食い違ってくることもあります。そういう場合は、その患者さんにとって治療がもっとも効果的になるよう、ケアや支援体制の調整に努めます。また、話し合われる内容では身体的なことだけではなく、家庭の事情や仕事など社会的情報も重要視しています。入院当初は必要ではないと思っていた情報でも、入院生活の中で役に立つこともあります。このような情報交換を繰り返しながら、患者さんの回復過程をチームで支援していきます。



リハビリスタッフによるカンファレンスの様子

入院時カンファレンスで得た情報を 看護スタッフと共有することで効率的な看護が可能になります。

看護師 伊場 紀子（副部長・師長） | 看護師 水沼 未来 | 看護師 上甲 かおり | 看護師 小玉 英子

Zoom Up!
Oozuchuo Hospital

病院
案内

【入院時カンファレンス】

医師の役割

全体的な治療方針を決めるのは、患者さんの病状を詳細に把握している医師です。医師がチームリーダーとなって、他職種が持っている情報や意見を総合的に判断し、患者さんの状態に合った治療環境を提供します。この際にチームがうまく機能するようスタッフ全体をまとめることも大事です。カンファレンスを通じて、患者さんのリハビリがどのような段階なのか、また栄養状態はどうなっているのかということも把握して、どんな治療をすべきか？退院に向けてどんなことに気をつけなければならないか？といった部分を明確にして、患者さんとそのご家族の希望なども考慮し、全てのスタッフに適切な指示を出すようにします。



放射線科におけるカンファレンスの様子

看護師

もっとも患者さんの近くにいるのが看護師です。医師の治療方針のもとに最大限の治療効果が発揮できるよう、検査・処置介助や日常生活の援助等の看護を行っています。カンファレンスでは、基礎疾患の有無やそれまでの生活状況、家族背景等をはじめ、現状の把握に努め、患者さんの思い・希望を医師や他のスタッフに伝える役割も重要です。私たちはベッドサイドで患者さんの気持ちに寄り添い、不安の中で病氣と向き合っている患者さんやご家族のお話に耳を傾けるよう心掛けています。

管理栄養士

患者さんの回復過程には、食事による栄養の影響が大きいため、カンファレンスの際には栄養状態の評価をきちんと伝えます。在宅にお戻りいただくためには、“食事ができる”というのが一つの基準となっています。そろそろ退院を…という患者さんには、家庭でも実践できるような食事内容を考えて、ご本人及びご家族にも食事指導を行います。入院中だけでなく、ご自宅に戻られてからの指導も大切にしています。

薬剤師

患者さんへの与薬は不可欠ですので、まずはスタッフ全員が薬剤の効果や副作用を理解し、正しく服用していただくことが重要です。まず、入院までに服用していた薬剤や新たに処方する薬剤を事前に確認し、異なる薬剤間での相互作用や同種薬剤の重複処方がないように医師に情報提供します。そして、カンファレンスにおいて、他のスタッフにも薬剤情報を伝えます。また、患者さんには正しい服用の仕方を身につけてもらうために薬剤の効果や副作用、服用時の注意事項などを指導します。この時にカンファレンスで得た情報が、患者さん個々の生活習慣に合わせた具体的な指導に役立っています。



薬剤科におけるカンファレンスの様子

リハビリスタッフ

患者さんが退院する際、必要とされる動作や自宅環境はそれぞれ異なります。私たちは患者さんが入院生活からスムーズに家庭や社会生活に戻れるよう、入院初期からカンファレンスに参加して病状をきちんと把握した上で早期リハビリを開始しています。ご本人、ご家族のお気持ちを基に身体的状況に合った目標を設定し訓練を実施しています。また、必要に応じてご自宅を訪問し住宅改修のアドバイスをしています。

医療ソーシャルワーカー

当院には重篤な病気を抱えている患者さんも多く、入院されるご本人はもちろんご家族の方も様々な不安を抱えていらっしゃいます。まずカンファレンスに参加して病状だけでなく他職種からの患者情報を得ると共に、退院を視野に入れた家庭の事情や仕事などについての社会的問題を抽出します。入院中から、退院後自宅で介護ができるのか心配されるご家族への支援も、私たちの重要な仕事です。家庭内の受け入れ態勢や介護保険の手続きといったものまで、分かりやすいようにアドバイスしています。特に脳血管疾患の場合、それまで普通に生活されていた方が重い障害を後遺するケースも少なくありません。そのような場合にも家庭で患者さんを受け入れる態勢を整えていただけるよう、きめ細やかなアドバイスをしています。

大洲中央病院では医師を中心にスタッフが丸となって、患者さんのために最善の治療及びケアが行えるように努力しています。今後も各々の専門職種が力を発揮するだけでなく、互いに連携してそれぞれの患者さんの状況に的確に対応した医療が出来るように努めてまいります。

日本医療機能評価機構から

「一般病院1」「リハビリテーション病院(副)」の認定を受けました。

病院機能評価とは

病院機能評価とは、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況の評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図れます。

病院機能評価の審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」です。すなわち、認定病院は、地域に根差し、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると評価されます。すでに全国の病院の約3割が認定されています。

平成15年に認定病院として評価され、今回2回目の更新で新バージョン(機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.0)で受審しました。その結果以下のような評価を受けました。

① 病院の特色

地域の中核的病院として救急医療から一般・療養期までの幅広い領域に対し、十分な医療を提供されている。

② 理念達成に向けた組織運営

病院の理念・経営理念の内容はよく検討された内容であり、適時の見直しのための検討も適切に実施されている。

③ 患者中心の医療

患者の権利はよく工夫された内容で、明確にされている。療養環境の準備に関しては、新病院の建て替えを機会に十分検討され、玄関のエントランス、屋内壁面のステンドグラス、広い廊下、環境とマッチした外壁、消臭のための機器の導入、多床室での個室的设计など多くの工夫がちりばめられており、高く評価される。

④ 医療の質

外来診療において、土曜日・日曜日に平日並みの診療が行われていることは、救急輪番制への対応も含め、地域住民にとって重要な取り組みであり、継続した努力は高く評価される。

⑤ 医療安全

医療安全に向けた取り組みについては、委員会や専門部会がよく機能している。患者・部位・検体などの誤認防止の対策については適切であり、情報伝達エラー防止は十分な取り組みにより適切な状態である。

⑥ 医療関連感染制御

院内におけるICT活動が積極的に行われ、院内感染防止対策委

員会活動も積極的であり、毎月の「感染対策ニュース」の発行など評価される。感染防止マニュアルがよく整備され、各種の防止対策も現場でよく実施されている。

⑦ 地域への情報発信と連携

病院からの情報発信については、ホームページは内容がよく、わかりやすい。また、広報誌は継続的に発刊され、その内容については工夫がうかがえる。

⑧ チーム医療による診療・ケアの実践

紹介患者の受け入れから紹介元への返信、患者・家族からの医療相談、看護師やリハビリテーション職員との連携による退院支援、在宅で過ごすための助言など、地域医療連携室の適切で幅広い活動は高く評価できる。かかりつけ医機能は、緊急や夜間も含め、その責任はよく果たしている。

輸血・血液製剤については、地域の血液センターとしての役目を担うなど評価される。手術・麻酔・周術期の対応や、重症患者の管理についてもよく検討されたシステムがよく機能している。リハビリテーションは、人材の充実が図られ、休みがなく年間を通して業務が行われているなど評価される。

回復期リハビリテーション病棟でのリハビリテーションの取り組みは、365日業務が行われており、患者の情報の把握は行き届き、質高く実施されている。



「一般病院1」の認定証

「リハビリテーション病院(副)」の認定証

院内美術館



『ビエルサレム』
安野光雅作

淡い色調で描かれる風景画

今回ご紹介するのは、本館4Fの浴室通路にあるリトグラフです。作者の安野光雅は、教師を勤めたのち絵本作家となり、またその好奇心と想像力の豊かさで、水彩画など次々と独創性に富んだ作品を描きました。淡い色調で描かれ、やさしい雰囲気漂うこの風景画『ビエルサレム』は、これからの季節にピッタリの作品です。ぜひ立ち止まってご覧になってください!



安野光雅(あんのみつまさ) / 1926年島根県津和野生まれ。山口師範学校研究科修了。1988年に紫綬褒章、2008年に菊池寛賞を受ける。故郷津和野町には「安野光雅美術館」がある。

市民公開セミナーでの発表について

1月23日(木)に四国がんセンターで開催された患者及びご家族を対象とした「市民公開セミナー」に、「社会福祉サービスについて」というテーマの講師としてお招きいただきました。介護保険制度や障害者サービスについて自院での活動を織り交ぜながらお話をさせていただきました。四国がんセンターと地域とのつながりを持つという意味合いでの同事業の取り組みではありましたが、患者さんや四国がんセンターの職員など多くの方々に参加されており、多数質問をいただくなど自分自身の業務の振り返りにもつながり、大変有意義な研修会となりました。今後も地域の中核病院として出来る支援を行っていききたいと思います。

地域医療連携室 室長 池田 辰也



院内糖尿病チーム医療研修会の開催

3月3日(月)に糖尿病チーム医療研修会を開催し、院外の方にもご参加いただきました。済生会松山病院の副院長で糖尿病専門医でもある宮岡弘明先生と糖尿病看護認定看護師の徳野みどり先生から、自施設での具体的な取り組みについてご講演いただき、当院からは愛媛糖尿病療養指導士(ECDE)の紙本美香が、院内での取り組みや今後の展望について発表を行いました。両先生からは、どのようにチームで療養指導を行うか、外来・病棟での実際の指導方法など、興味深いお話をいただき大変勉強になりました。



今後も、年々増加している糖尿病の患者さんをチームで支えていけるように、各専門職が更なる自己研鑽に努めて参ります。

地域連携健康推進委員会 高岡 美智代

防災研修会の開催

2月24日(月)、院内において防災研修会が開催されました。今回は、大規模災害等発生時に対する研修を行い、講師役として参加しました。南海トラフ地震についてハザードマップを利用した危険箇所の確認、地震災害時にとるべき行動についての学習を行いました。一連の研修を通して、地震に対する知識の必要性を感じると共に、災害が発生したときにどのように行動するかを、日頃からイメージしておくことが大切であると痛感しました。次回は、災害対策マニュアルを利用した行動訓練に移りたいと考えています。

災害時にも皆さんに安心していただけるよう、今後も訓練を繰り返し安全な医療を提供して行きたいと思えます。

診療情報管理室 室長 東 研志

第52回
愛媛マラソンに参加

2月9日(日)に開催された第52回愛媛マラソンに初参加しました。後半何度もくじけそうになりましたが、沿道の声援が絶えず、身内や友人の応援も励みとなり、無事に完走することが出来ました。

走り終えた後は動けず、もう二度と走らん!と思いましたが、達成感・充実感をじわじわと感じ、来年もまた走ろうかと思いはじめています。走り始めてから忍耐力・体力も付き、勤務にも活かされているように思います。日頃運動をされている皆さん来年は参加してみたいはいかがでしょうか?



リハビリテーション科 作業療法士 久保 美香子

外来診療医師一覧表

診療科目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
内科	1 診	池本 純※	休診日	大久保啓二※	大久保啓二※	大久保啓二※	大久保啓二※
	2 診	山上 隆司		山上 隆司	池本 純※	池本 純※	山上 隆司
	3 診	井上 明子		井上 明子	近藤 誠司	山上隆司(第1・3・5)	近藤 誠司
	4 診	越智 明子		近藤 誠司	越智 明子	近藤誠司(第2・4)	池本 純(第1・3・5)
外科	1 診	森岡 徹	休診日	森岡 徹	森岡 徹		森岡 徹
	2 診	満谷 臨		満谷 臨		満谷 臨	満谷 臨
	3 診				武内 成禮	武内 成禮	
整形外科		栗田 英明		栗田 英明	栗田 英明	栗田 英明	栗田 英明
泌尿器科		清水 公治		清水 公治	清水 公治	清水 公治	清水 公治
脳神経外科	1 診(新患)	西原 潤		西原 潤	重川 誠二	瀬野 利太(隔週)	重川 誠二
	2 診(再診)	重川 誠二		重川 誠二	西原 潤		西原 潤

編集後記

寒い日が続いていると思っているうちにあっという間に4月になり、今年も新入職員を迎え26年度がスタートしました。私たちも新人時代を思い出し、今一度初心に戻り、新たな気持ちで仕事に取り組んで行こうと考えております。

本年度も地域の皆さんのお役に立てる病院として努力して参りますので、よろしくお願ひいたします。

発行/医療法人 北斗会 大洲中央病院

編集/広報委員会

寺尾光司(事務部長・理事)/京河(放射線科)/伊場(看護副部長)/伊達・福島(看護部)/福田・大西(リハビリテーション科)/谷本(医事課)/松本(総務)/檜巻(栄養科)

受付時間 午前8時00分～午前11時30分

診療開始時間 午前9時00分～ 担当医師は緊急手術などで変更する場合がありますので、事前にお問い合わせください。(休診になる場合あり) ※は、予約診療になっています。

休診日 救急診療のみ…5月3日(出)、5月4日(日)
休診日……………火曜、水曜、5月5日(月)、7月21日(月)

医療法人 北斗会
大洲中央病院
Oozuchuo Hospital

